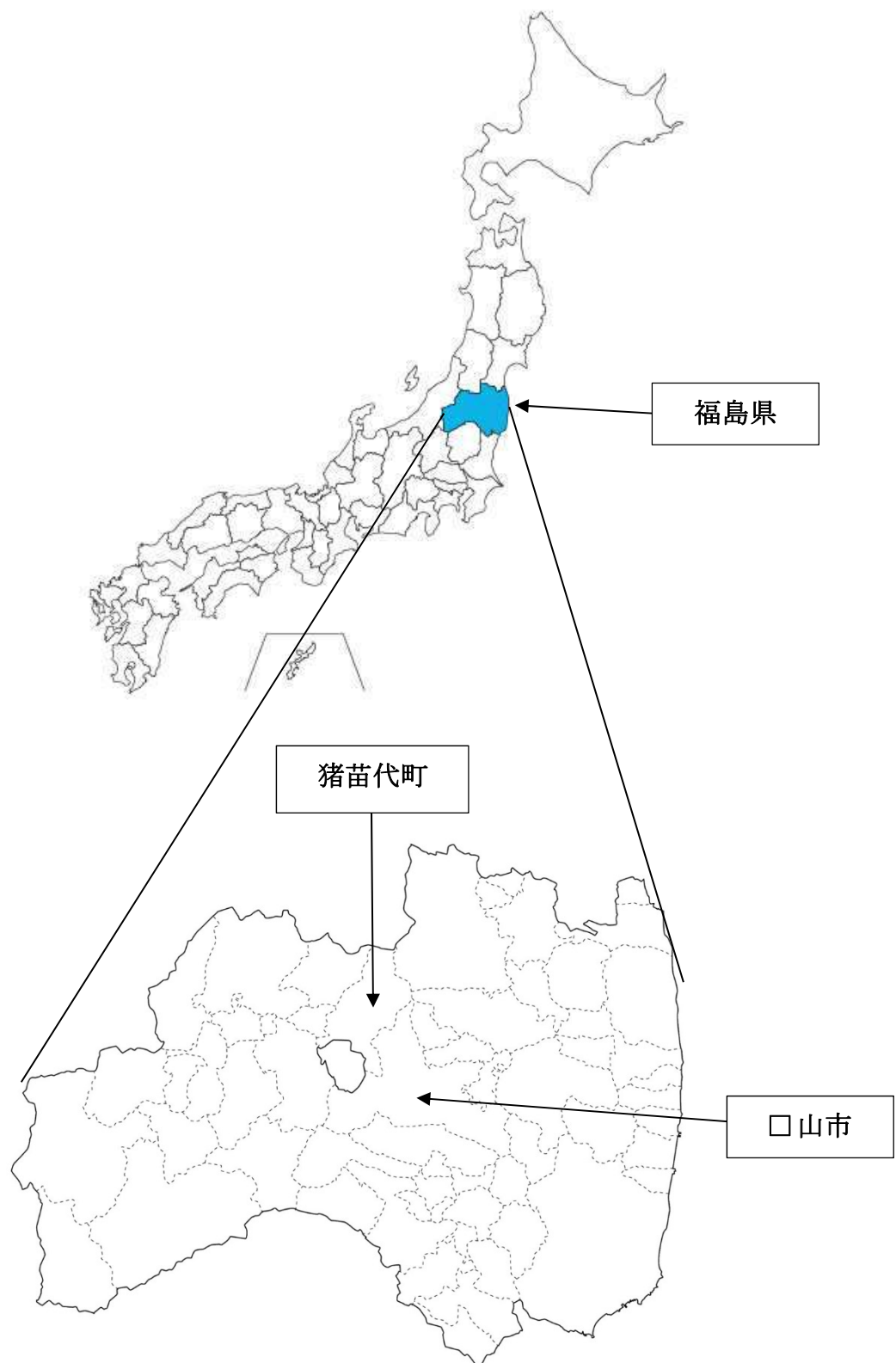


① 申請者	◎郡山市 猪苗代町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
(ふりがな)	みらいをひらいた「いっぽんのすいろ」ーおおくぼとしみち“さいごのゆめ”とかいたくし やのきせき こおりやま・いなわしろー		
未来を拓いた「一本の水路」ー大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代ー			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
明治維新後、武士の救済と、新産業による近代化を進めるため、安積地方の開拓に並々ならぬ想いを抱いていた大久保利通。夢半ばで倒れた彼の想いは、郡山から西の天空にある猪苗代湖より水を引く「安積開拓・安積疏水開さく事業」で実現した。 奥羽山脈を突き抜ける「一本の水路」は、外国の最新技術の導入、そして、この地域と全国から人、モノ、技を結集し、苦難を乗り越え完成した。この事業は、猪苗代湖の水を治め、米や鯉など食文化を一層豊かにし、さらには水力発電による紡績等の新たな産業の発展をもたらした。 未来を拓いた「一本の水路」は、多様性と調和し共生する風土と、開拓者の未来を想う心、その想いが込められた桜とともに、今なおこの地に受け継がれている。			
			

市町村の位置図（地図等）

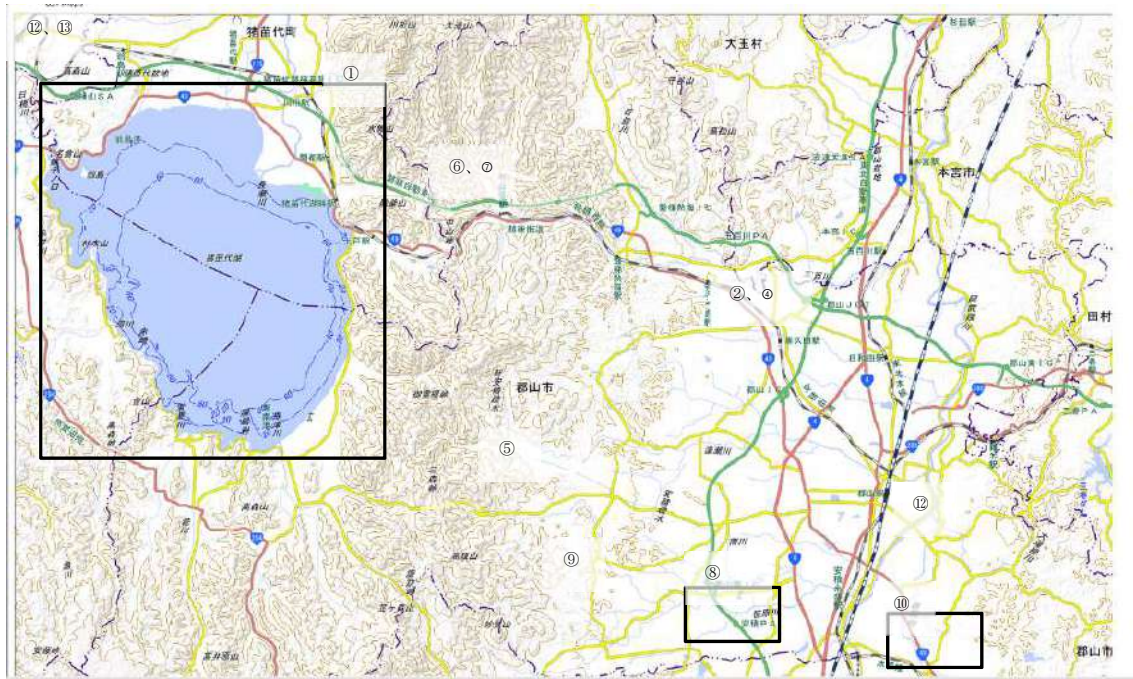


構成文化財の位置図（地図等）

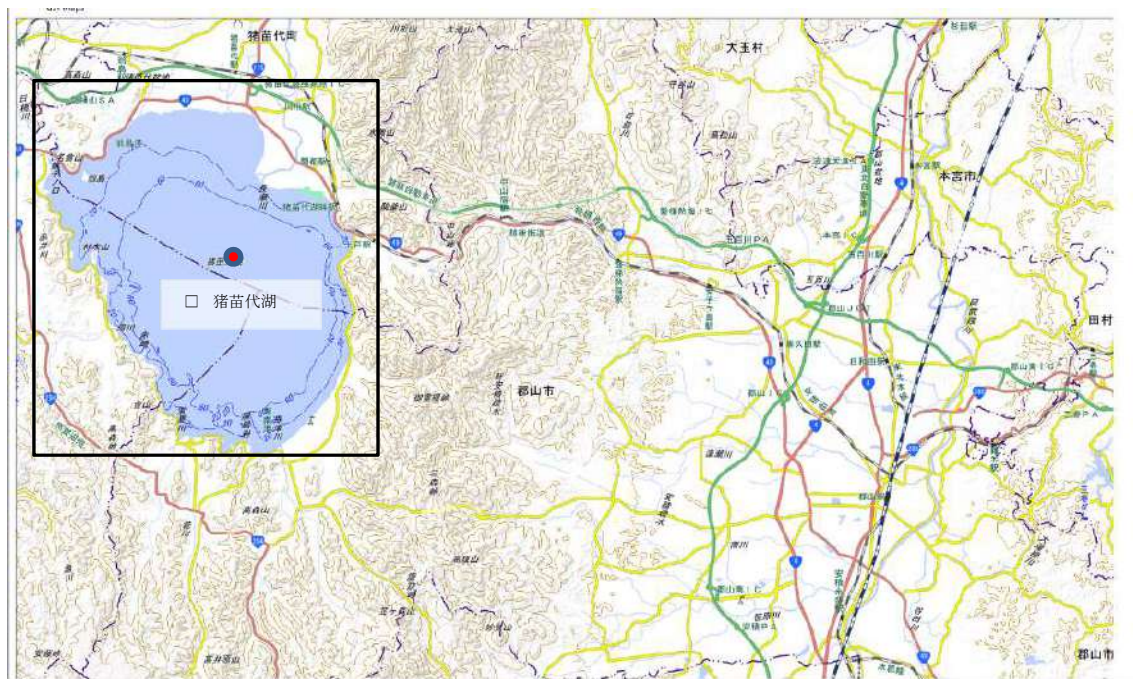
※構成文化財がある地域を拡大し、構成文化財の位置を示す

□様式□□□の番号に対応させること□

【全体図】 □①□⑬は各地域の地図を示している□



①



出典：国土地理院ウェブサイト (<http://maps.gsi.go.jp/>)
地理院地図を加工し作成（以降のページの地図全て同様である）

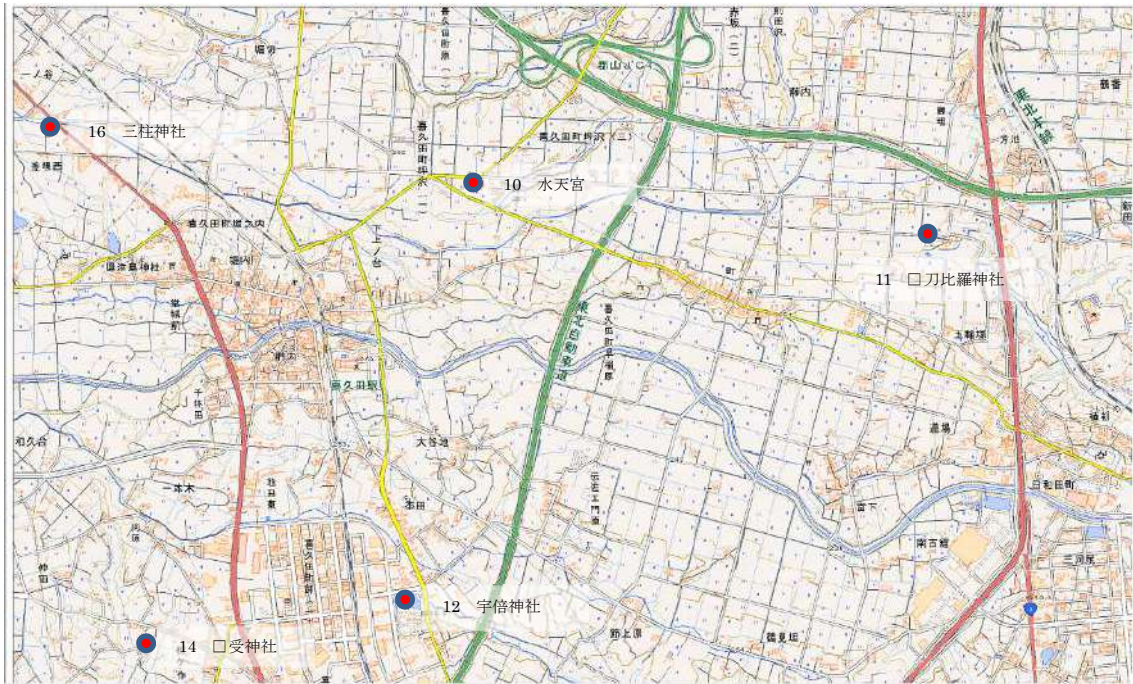
②



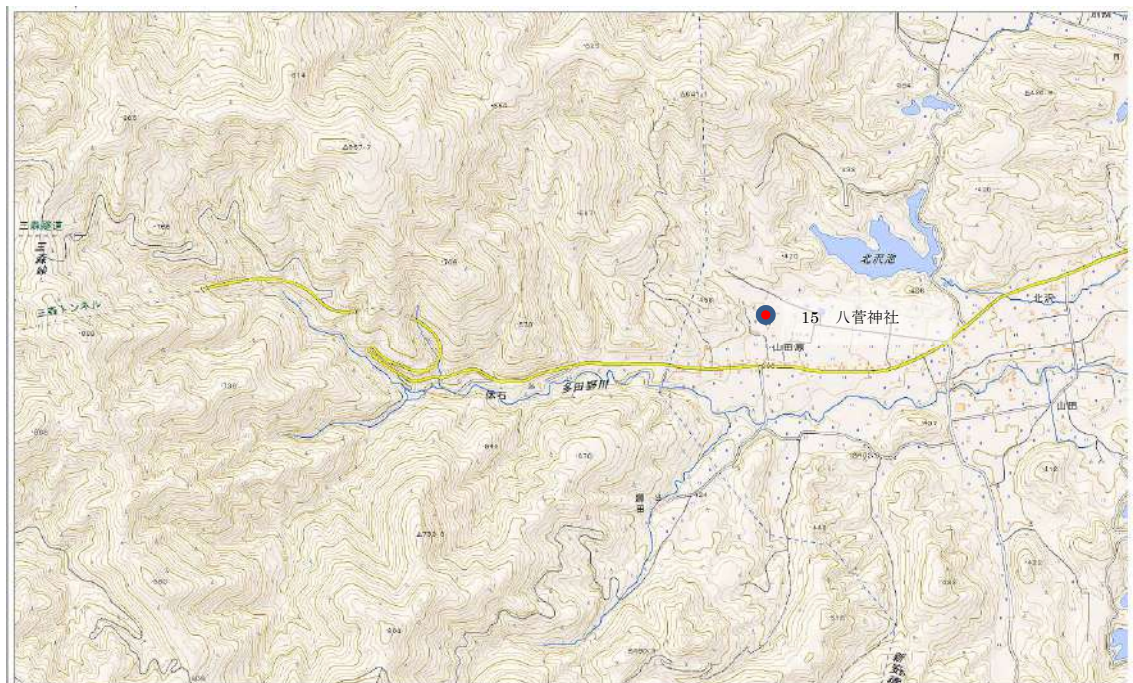
③



④



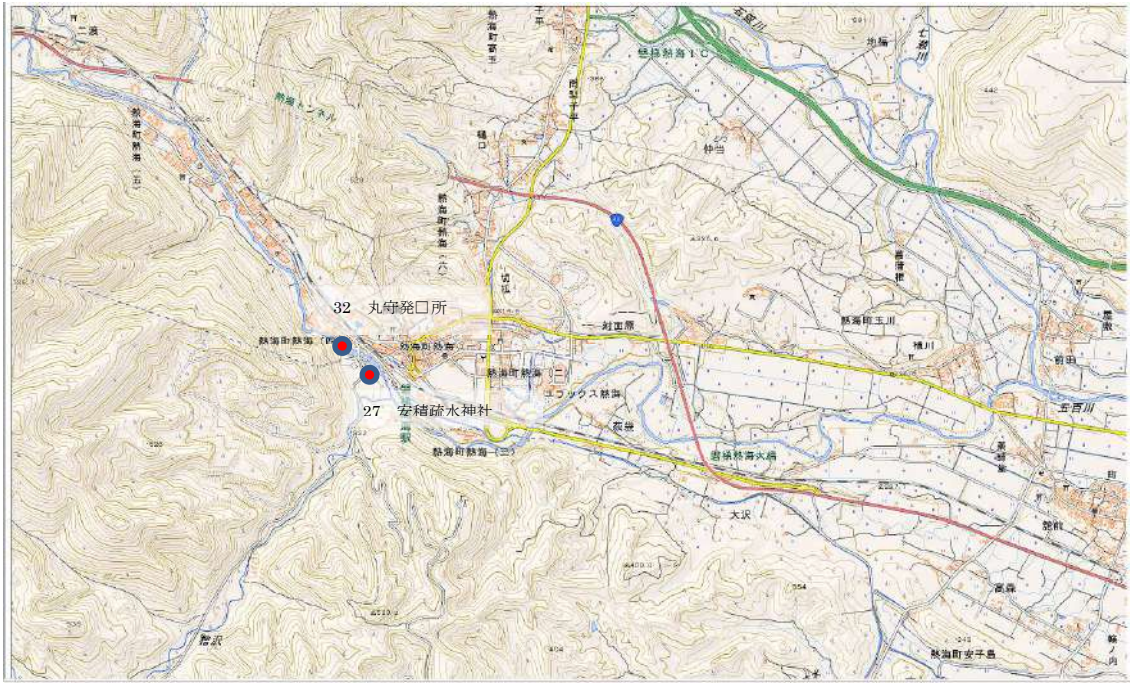
⑤



⑥



⑦



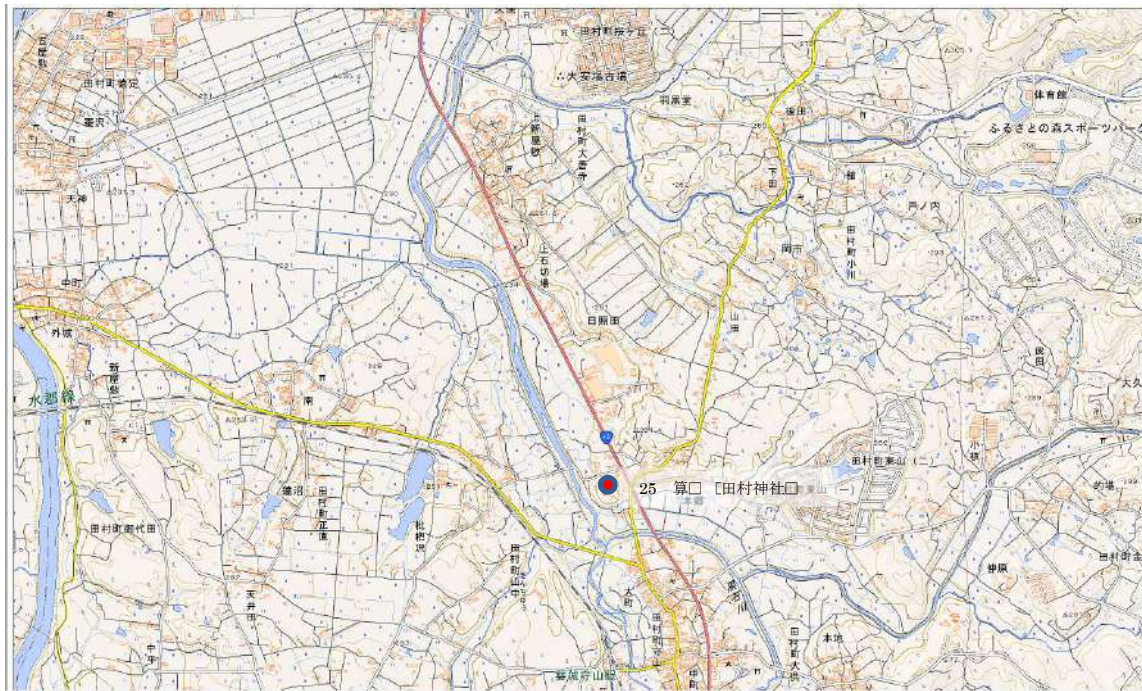
⑧



⑨



⑩



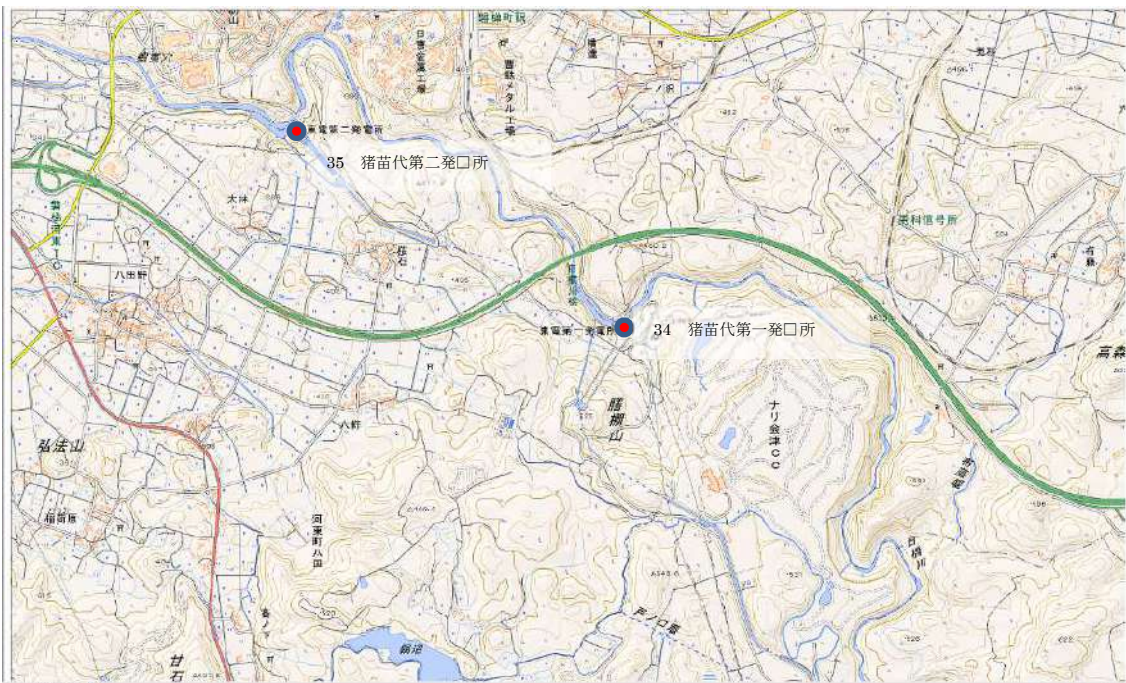
11



⑫



⑬



※複数ページにわたっても可

ストーリー

【安積原野へは流れない、あこがれの湖】

郡山（安積地方）から西の天空（標高 514m）にあり、豊富な水を湛え、天を映し出す鏡のような美しい湖、猪苗代湖。郡山には、「猪苗代湖の水を安積原野へ」という疏水開さくの構想が江戸時代から存在していた。枯渇した原野が広がり、人々は水を巡って争い、雨乞いや豊作の思いを込めた花火を打ち上げ、祈りを捧げていた。しかし、猪苗代湖の水は西側へのみ流れ、奥羽山脈がそびえる東側の安積原野には水がなく、疏水開さくは夢物語であった。



【大久保利通、安積の地に“夢”を見る】

明治維新という近代化へのかつてない改革があった日本。明治4年（1871）、岩倉使節団は近代化を推進するため、欧米諸国を約1年10か月かけて視察した。そして欧米の発展を目の当たりにし、国力の差に圧倒させられる。彼らは、経済力と軍事を備えるため「富国強兵」をスローガンとし、新産業の育成を目指す「殖産興業」の進展が急務と痛感した。この使節団に、安積原野の開拓を大きく左右する後の福島県令・安場保和と、内務卿・大久保利通が参加していた。彼らは、開拓と産業振興が発展の源であると確信を得る。そして、安場はひと足先に帰国し、さっそく福島県の開拓に着手した。

明治6年（1873）、福島県の開拓に呼応した地元富商たちは、「開成社」を結成し、本格的な開拓に乗り出した。灌漑用の沼の整備や葡萄など海外果樹の植樹、西洋農具を用いた斬新で近代的な西洋農法を導入した開拓地は、収穫量や人口の増加により、新村が誕生するまでに至る。一方では、開拓事務所が置かれた「開成館」は西洋風の建物を地元の大工たちが錦絵等をもとに、見よう見まねで作ったその象



微こ的な建物たてものであった。また、開成社員は洋服を身にまとい、積極的きふてきに西洋文化を取り入れつつ開拓を進めた。ここに、慣習かんしゅうにとらわれず、新たなものを受け入れ調和しんじゆする進取の気質があったことが感じられる。

明治9年（1876）、明治天皇の東北巡幸の下見に来た内務卿・大久保は、福島県と開成社が進めてきたこの官民一体の開拓事業の成功に感激する。大久保は、「殖産興業」と改革で困窮した武士を救う「士族授産」を結び付けた全国的なモデル事業を、他の候補地に先駆け、広大な原野を有する安積の地で実施することを決断した。この地には、東西南北に通じる交通の要衝、豊富な水を湛える猪苗代湖、そして進取の気質を持った開拓者が存在していたからである。こうして大久保は、明治11年（1878）3月に事業案を提出し、政府は予算を計上した。しかし、事業開始目前、大久保は暗殺されてしまったのだ。彼は亡くなる直前まで当時の福島県令と会い、開拓にかける想いを熱く語っていたという。

この大久保の“夢”は、開拓者やその想いを知る人々によって、明治政府初の国営農業水利事業「安積開拓・安積疏水開さく事業」として実現されていくのである。

【新たな挑戦、そびえる山脈と時代を切り拓く】

明治11年11月の九州・久留米藩を皮切りに、主に全国9藩から旧士族と、その家族約2,000人が刀を捨て、原野を開拓しようと入植してきた。入植者たちは、困難が予想される新たな土地での心の拠り所として、故郷の神社などからの分霊を受け、力を合わせ開拓に臨んだ。特に、人心融和のため伊勢神宮から当時唯一の御分霊を許された「開成山大神宮」は、人々の心の拠り所となっていたのであった。

明治12年(1879)、この大神宮で、かつてない大工事の安全と成功を祈願する起工式は行われた。始めに着手したのは、安積疏水成功のカギを握り、会津盆地と安積原野の水の流れを調整する「十六橋



当時の十六橋水門

「水門」の建設であった。革新的だったのは、オランダ人技師ファン・ドールンの監修のもと、近代土木技術を我が国で初めて疏水の設計に導入したことである。当時最先端の機器が用いられ、実測データに基づき科学的に検討するという従来の経験主義を脱却した草分け的な設計であった。この検証により、安積原野へ水を流しても、西側へ流れる水量は減らないことが実証され、水利という長年の大きな課題を解

決に導いた。また、猪苗代湖の氾濫に苦しんでいた湖岸の住人達は、十六橋水門が治水の役割も持つことを知り、遠く離れた地からボランティアとしてこの工事に参加した。その人数は500人以上にのぼり、この大工事を1年程で完成させた。水路工事の最大の難関は、奥羽山脈に全長585mのトンネルを掘り、安積原野まで水を一気に流すことであった。硬い岩石を砕くダイナマイト、地下水を外に汲み出す蒸気ポンプ、補強のためのセメントなど、外国の最新技術が使われていった。また、鹿児島、大分、東京、横浜、岩手、新潟など全国から多くの技術者たちが集ってきた。開拓者たちの安積原野と猪苗代湖を繋ぐ挑戦は、疏水通水へと結実し、後の那須疏水と琵琶湖疏水の建設に大きな影響を与えたのである。

【潤いと発展をもたらした猪苗代湖、“夢”の礎となった風土】

明治15年(1882)、約3年で、延べ85万人の労力と当時の年間国家土木予算の約1/3相当を要した水路52.1km、分水路78kmの安積疏水は完成した。その通水式には政府要人らをはじめ数万人が集い、事業の成功を祝った。

安積疏水は大地を潤し、約4,000haだった米の作付面積は、最大時に10,000ha以上へと広がった。収穫量は約4,500tから10倍以上へと大幅に増え、実り多き大地へと生まれ変わっていった。また、清らかな水が一年中流れるようになり、鯉の養殖が盛んになった。それぞれ生産量が全国市町村で1位になるほど、食文化を豊かにしている。



安積疏水の完成を祝って造られた龍山の飛瀑

明治後期からは、疏水の落差を発電にも活かすため、当時の最高技術を結集し、「沼上発電所」が建設された。そこから、23kmも遠く離れた郡山に11,000vの高压電力を送るという、我が国初の長距離高压送電を成功させ、日本中を驚かせた。この電力は製糸、紡績など郡山の産業を発展させていった。その後、十六橋水門を活用し、猪苗代湖の西側に建設された新たな発電所から関東への送電は、当時世界第三位の長距離送電と謳われ、近代日本を支えた。そして、開拓により人が集い、将来の叡智を育むための学校が作られ、やがて銀行の設立や鉄道の開通にも結び付いていった。

「安積開拓・安積疏水開さく事業」は、交通の要衝、全国と世界から人、モノ、技術、更には文化等の多様性を受け入れ、調和し、共に生きるという、この地の風土が大きく活かされ、成し遂げられた。それらは、農業・工業・商業の飛躍的な発展を通じて今も受け継がれており、日本の近代化を実現するため、この事業への熱い想いを語っていた、大久保利通の“最期の夢”を叶える礎になったのである。

【開拓者たちの想い、未来に花咲く】

全国から集った入植者や技術者、政府、そして安積の地に生きた人々が、ともに切り拓いた安積開拓。かつて、福島県と開成社が開拓を進めていた折、灌漑用の沼の堤に、約3,900本の桜を植えた。現在でも、開拓の歴史を見守ってきたソメイヨシノの老木は、春になると開成山公園の土手一帯を覆い尽くす。



桜が満開の開成山公園

開成社の社則に、「私たちの代では小さな苗木でも、やがて大樹となり、美しい花は人々の心を和ませるであろう」との想いが込められた一文がある。この未来を想う心が、新しい時代を拓いたといっても過言ではなく、その想いは今なおこの地に息づいている。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	猪苗代湖 いのわしろこ	未指定	猪苗代湖の水の恩恵を受けるべく、安積開拓・安積疏水開さく事業が行われた。標高が 514m と高い位置にあるため、自然落差を利用し、農業用水や生活用水が供給された。また、水力発電の発展にも貢献し、近代化への礎を築いた。	郡山市 猪苗代町
2	富岡の唐傘行灯花火 とみおか からかさあんどんはなび	市無形	明治初期から始まった花火で、雨乞い、豊作、家内安全を祈願するもの。閉じられた傘が開き、光が雨のように降り注ぐという全国でも珍しい花火である。	郡山市
3	安積開拓発祥の地 あさかいたくはつしょうのち	市史跡	福島県開拓掛が設置された施設「開成館」や開拓の入植者の住宅があり、近代郡山の発展の礎となった安積開拓・安積疏水開さく事業の中心地。	郡山市
4	安積開拓官舎 一旧立岩一郎邸一	市重文 (建造物)	安積開拓時に設置された「福島県開拓掛」の職員用官舎。明治天皇の御巡幸の際には、政府高官の宿泊所にもあてられた。	郡山市
5	開成館 かいせいかん	県重文 (建造物) (近代化産業遺産)	安積開拓時の郡役所で、ここに福島県開拓掛が設置された。地元の大工が錦絵や建物の見聞を通じて得た情報で、見よう見まねで建設された「擬洋風建築」。後に県立農学校にも使用され、明治天皇の 2 回にわたった東北御巡幸の際には、行在所（宿泊所）や休憩所にもなった。	郡山市
6	金透記念館 きんとう きねんかん	未指定	開成館と同じ「擬洋風建築」で建設された小学校。明治 9 年（1876 年）の明治天皇東北御巡幸の際には、休憩所として使用された。随行した木戸孝允が「金透学校」と命名し、木戸の日記に	郡山市

			は、開成館や西洋農法が導入された開拓地とともに、驚きをもってその様子が記されている。現在の建物は、復元されたもの。	
7	五十鈴湖 いすずこ	未指定	開成山地域の開拓が行われた際に、灌漑用の池として造成された。伊勢神宮の御分霊を受けた開成山大神宮の前にある池であったため、伊勢神宮の前を流れる「五十鈴川」にちなんで命名されたという。	郡山市
8	大久保神社	未指定	安積疏水の開通に尽力した大久保利通を称えて建立された神社。神社となっているが、実際には鳥居や社殿はなく、顕彰碑が存在している。	郡山市
9	久留米水天宮 くろめすいでんぐう	未指定	久留米藩からの入植者のために、故郷の水天宮の御分霊を奉遷した神社。建築費寄附名簿には、三条実美、伊藤博文、大隈重信、松方正義、岩倉具視など、当時の政府高官の名が並んでいる。	郡山市
10	水天宮	未指定	水天宮の御分霊を奉遷したもう1つの神社で、喜久田町に存在している。久留米の開墾地は南北に分かれ、この水天宮は北に位置している。当時は子どもの遊び場や、疏水の水盤屯所に使用されており、開拓者の憩いの場所になっていた。	郡山市
11	金刀比羅神社 ことひら	未指定	久留米藩からの入植者が祀った神社で、当時久留米から長い船旅を経て、安積開拓の地に到着したことから、船の神を祀っているとされている。	郡山市
12	宇倍神社 うべ	未指定	鳥取藩からの入植者のために、故郷の宇倍神社の御分霊を奉遷した神社。当時氏子の資格要件が厳しく、移住士族とその分家だけが氏子となり、一般入植者や小作人たちは氏子になれなかったといわれている。	郡山市

13	安積開拓入植者住宅 －旧坪内家－	未指定	安積開拓のため、鳥取藩の入植者が結成した「鳥取開墾社」の副頭取の住宅。明治政府が入植者の住宅用補助金を交付し建築された5つのランクの住宅の中でも最上級の設計による建物。	郡山市
14	豊受神社 とようけ	未指定	土佐藩の入植者のうち、西原に入植した者が祀った神社。はじめは伊勢神宮の遥拝所 ようはいじよ を設けていた。ここに移住した人達のほとんどが神葬祭で仏葬はあまりないといわれており、付近の地域には見られない習慣がある。	郡山市
15	八菅神社 やすが	未指定	土佐藩からの入植者が崇めた菅原道真と、地元の農家が祀っていた八幡太郎を合祀し、八幡と菅原の1字ずつとってできたといわれる神社。異郷に移って生活の喜びや娯楽に乏しかった入植者たちにとっては、神社の祭礼は唯一の楽しみとなっていた。	郡山市
16	三柱神社 みはしら	未指定	主に棚倉藩からの入植者が建立した神社で、「お互いの心を統一し、団結を強固にする」ために、開墾にあたり神の御加護を祈ったものであるとされる。	郡山市
17	三嶋神社 みしま	未指定	松山藩からの入植者のために、故郷の三嶋神社の御分霊を奉遷した神社。移住者の大半が小作人となったため、境内も狭く社殿もなかったといわれる。	郡山市
18	安積開拓入植者住宅 －旧小山家－	市重文 (建造物)	安積開拓のため、松山藩の入植者が結成した「愛媛松山開墾」の18戸の中で唯一現存する住宅として復元・保存されている。当時の松山の一般的な民家は、「四間×六間（しろくのま）」、囲炉裏 いろり がなく、炊事場も屋外だったといわれ、それが色濃く残っている。	郡山市
19	開成山大神宮 かいせいさんだいじんぐう	未指定	安積開拓に従事した人々の心の拠り所として設置された神社。伊勢神宮からの御分霊を祀っており、「東北のお伊勢さま」と呼ばれている。	郡山市

20	太刀 勝光 たち かつみつ	市重文 (工芸品)	伊勢神宮からの御分霊を受けた際に、御神宝として贈られた太刀。備前国長船に住んでいた、室町時代の刀匠勝光の作である。	郡山市
21	槍 銘 国綱 やり めい くにつな	市重文 (工芸品)	太刀 勝光とともに、伊勢神宮からの御分霊を受けた際に、御神宝として贈られた槍。安土桃山時代の作といわれている。	郡山市
22	十六橋水門 じゅうろっきょうすいもん	未指定 (近代化産業遺産)	安積原野へ水を流すために、猪苗代湖の水位を調整する水門。安積疏水工事で一番初めに工事が始まった。当時は16の石造のアーチでできており、日本では長大な水門であった。安積開拓・安積疏水開さく事業のシンボリック建造物で、大正期には日本の工業化を進めるべく東京へ送電を目的として建設された猪苗代第一発電所に併せて、大規模な改修が行われた。弘法大師が16の塚を築いて通行できるようにして、村人の不便を救ったとの逸話もある。	猪苗代町
23	トランシット	未指定	安積疏水工事の測量で使用されたフランス製の測量機器。当時は約664円(現在の約2,600万円)という大変高価なもので、水平角と鉛直角を精密に測定した。西を示すコンパスの針が「W」ではなく、「O」となっているのが昔ならではの珍しい特徴。	郡山市
24	レベル	未指定	安積疏水工事の測量で使用されたイギリス製の測量機器。高低差を精密に測量した。	郡山市
25	算額 (田村神社) さんがく	市有形	日本古来の和算は、西洋数学の採用により廃止されてしまったが、郡山の和算家は、安積開拓や安積疏水の土地測量・水量計算に大活躍したといわれている。和算の水準と研究者の分布を知ることができる学術上も貴重な文化財である。	郡山市
26	算額 (稲荷神社) さんがく			

27	安積疏水神社 あさかそすいじんじや	未指定	安積疏水の守護神とされ、当時の工事作業員が、現地に向かう際に必ず立ち寄り、その日の安全を祈ったとされる。	郡山市
28	麓山公園 はやまこうえん	未指定	明治 15 年（1882 年）に安積疏水の通水を盛大に祝った公園。当時、園内には数百ものちょうちんが掲げられ、山車を備えた歌舞伎の催しや、花火の打上げなどにより、数万人の人が集まり未曾有の賑わいをみせたとされる。	郡山市
29	安積疏水麓山の飛瀑 あさかそすいはやまひばく	国登録	明治 15 年（1882 年）に郡山の開成社等の有志が安積疏水の通水を記念して麓山公園の一角に築いた滝。安積疏水事業の記念碑的建造物で、当時の安積疏水の最終地点の一つ。当時右大臣だった岩倉具視が『農業用の施設を鑑賞用に使うとは何事か』とこの滝を見て激怒したが、実は勘違いで製糸業の動力源として利用するためのものだったという逸話もある。	郡山市
30	沼上発電所 ぬまがみ	未指定 (近代化産業遺産)	明治 32 年（1899 年）に、猪苗代湖と安積疏水の落差を利用して運転を開始した水力発電所。建設には「電気化学工業の父」と称された野口 遵 ^{したかう} が技師長として携わった。日本初の高圧電力の長距離送電により、郡山市の紡績や繊維産業の発展に大きく貢献した。	郡山市
31	竹之内発電所 たけのうち	未指定 (近代化産業遺産)	沼上発電所と同様、猪苗代湖と安積疏水の落差を利用して造られた水力発電所。人口増加による家庭への電力供給を増やすため、大正 8 年（1919 年）に運転を開始した。	郡山市
32	丸守発電所 まるもり	未指定 (近代化産業遺産)	沼上、竹之内発電所と同様に造られた水力発電所。大正 10 年（1921 年）に運転を開始し、竹之内発電所と同様に人口増加による家庭への電力供給を増やすことを目的とした。	郡山市
33	旧福島県尋常中学校本館	国重文 (建造物)	明治 22 年（1889 年）に福島県尋常中	郡山市

		(近代化産業遺産)	学校として完成。当時桑野村は開拓事業により急速に発展しており、また、農民による土地の寄附や無償労力奉仕の申し出なども後押しし、この地に建てられたと言われている。当時の県下では最も進んだ洋風建築であり、創建された場所に当時の面影を残したまま現存している日本でも貴重な学校建築物である。	
34	猪苗代第一発電所 いなわしろ	未指定	大正 3 年 (1914 年) に運用開始となった水力発電所で、初の 115kV 送電が行われたことにより、当時の日本の中心を支えていた。運用開始時の出力 37,500kW は、当時東洋一の規模を誇っていた。建物は東京駅や日本銀行本店などを手掛けた辰野金吾 たつの きんご が設計している。	会津若松市 【所有者】 東京電力株式会社
35	猪苗代第二発電所 いなわしろ	未指定	大正 7 年 (1918 年) に運用開始となった水力発電所で、猪苗代第一発電所と同様、ここからの送電によって、当時の日本の中心を支えていた。赤レンガの外壁が特徴的で、建物は「猪苗代第一発電所」と同様に辰野金吾 たつの きんご が監修している。	会津若松市 【所有者】 東京電力株式会社
36	郡山市公会堂 こおりやましこうかいどう	国登録	大正 13 年 (1924) 市制施行を記念し建造された。国会議事堂を設計した矢橋賢吉 やしけんきち が監修を行い、オランダ・ハーグの平和宮などを参考に設計されたと伝わる。ネオ・ルネサンス様式を基調とするモダンな外観には、開拓の意気込みが壮麗に表現され、「進取の気質」を感じ取れる建造物。郡山の飛躍的発展の象徴でもある。	郡山市
37	開成山の桜 かいせいざん	未指定	開拓用の池の堤を強化するために植樹され、開成社の社則に、花木の植樹を定めていたことが今へとつながっている。今でも約 1,300 本の桜が咲き乱れる県内でも有数の桜の名所。元国	郡山市

			指定の名勝及び天然記念物でもあった。	
38	かいせいさんこうえん 開成山公園	未指定	開成社が開拓用に造った池があった公園。開成社の社則に定めた花木の植樹が生んだ桜の名所を有しており、郡山のシンボルの場所。	郡山市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

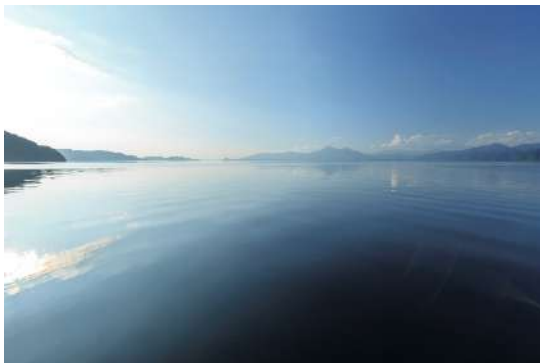
(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化□の写真一覧

□ 猪苗代湖



□ 安積□拓官舎□旧立岩一□□



□ 富岡の唐傘行灯花火



□ □成□



□ 安積□拓発祥の地



□ □□□念□



□ 五十□湖



10 水天宮



□ 大久保神社



11 □刀比羅神社



□ 久留米水天宮



12 宇倍神社



13 安積口拓入植者住宅□旧坪内家



16 三柱神社



14 □受神社



17 三嶋神社



15 八菅神社



18 安積口拓入植者住宅□旧小山家



19 □成山大神宮



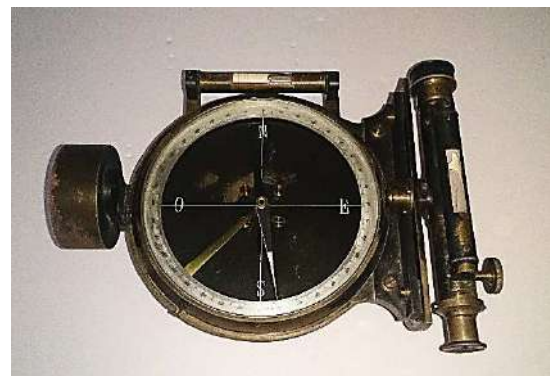
22 十六橋水口



20 太刀 勝光



23 トランシット



21 槍 □ 国綱



24 レベル



25 算□ □田村神社□



28 □山公園



26 算□ □稻荷神社□



29 安積疏水□山の□瀑



27 安積疏水神社



30 沼上発□所



31 竹之内発口所



34 猪苗代第一発口所



32 丸守発口所



35 猪苗代第二発口所



33 旧福島県尋常中学校本館



36 山形市公会堂



37 □成山の桜



38 □成山公園



＜平成 30 年度までの事業（日本遺産魅力発信推進事業）＞

事業①：	日本〇産パンフレット制作事業					
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 28 年度	
補助金額：	平成28年度 □	696千円	平成●年度 □	0千円	平成●年度 □	0千円
(積算)	一式					
事業概要：	日本〇産の概要や〇定ストーリー等の情報をコンパクトにまとめたパンフレットを制作する。					
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	日本〇産の知名度及び〇定ストーリーの〇知度					
目標値：	平成 28 年度 49 □			⇒ 平成 33 年度 80 □		
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	49	56	62	68	74	80
実績値	49	61	57			
事業②：	日本〇産PR広告〇置事業					
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 28 年度	
補助金額：	平成28年度 □	3,001千円	平成●年度 □	0千円	平成●年度 □	0千円
(積算)	一式					
事業概要：	〇山の玄〇口であるJR〇山〇構内にPR広告を〇置することで、市民への日本〇産周知を行うとともに、観光客へのPRを幅広く推〇する。					
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	日本〇産の知名度及び〇定ストーリーの〇知度					
目標値：	平成 28 年度 49 □			⇒ 平成 33 年度 80 □		
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	49	56	62	68	74	80
実績値	49	61	57			
事業③：	日本〇産〇定PR番組制作事業					
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 28 年度	
補助金額：	平成28年度 □	4,000千円	平成●年度 □	0千円	平成●年度 □	0千円
(積算)	一式					
事業概要：	地元テレビ局による番組放映を〇じて、市民及び福島県民に広く日本〇産の歴史的〇力をPRする。					
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	日本〇産の知名度及び〇定ストーリーの〇知度					
目標値：	平成 28 年度 49 □			⇒ 平成 33 年度 80 □		
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	49	56	62	68	74	80
実績値	49	61	57			

＜平成30年度までの事業（日本遺産魅力発信推進事業）＞

事業④：	日本〇産PR用新聞広告制作事業					
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 28 年度	
補助金額：	平成28年度 □ 4,320千円	平成●年度 □ 0千円	平成●年度 □ 0千円			
(積算)	一式					
事業概要：	地元新聞社による新聞広告を〇じて、市民及び福島県民に広く日本〇産の歴史的〇力をPRする。					
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	日本〇産の知名度及び〇定ストーリーの〇知度					
目標値：	平成 28 年度 49 □ ⇒ 平成 33 年度 80 □					
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	49	56	62	68	74	80
実績値	49	61	57			
事業⑤：	〇〇「一個人」による日本〇産プロモーション事業					
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 28 年度	
補助金額：	平成28年度 □ 5,605千円	平成●年度 □ 0千円	平成●年度 □ 0千円			
(積算)	一式					
事業概要：	知的好奇心の〇い大人をターゲットに、日本〇産の価値を伝え、「一個人」のネームバリューを活用し、観光〇客の増加を図る。					
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	日本〇産の知名度及び〇定ストーリーの〇知度					
目標値：	平成 28 年度 49 □ ⇒ 平成 33 年度 80 □					
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	49	56	62	68	74	80
実績値	49	61	57			
事業⑥：	〇K映像を用いた番組「日本〇産」による日本〇産プロモーション事業					
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 28 年度	
補助金額：	平成28年度 □ 5,184千円	平成●年度 □ 0千円	平成●年度 □ 0千円			
(積算)	一式					
事業概要：	日本〇産ストーリーや構成文化〇等を〇K映像で撮影・映像化することで、テレビ番組放映を行うだけでなく、ウェブ等の様々なメディアを〇じて日本〇産の〇力発信を行う。					
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	日本〇産の知名度及び〇定ストーリーの〇知度					
目標値：	平成 28 年度 49 □ ⇒ 平成 33 年度 80 □					
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	49	56	62	68	74	80
実績値	49	61	57			

<平成30年度までの事業（日本遺産魅力発信推進事業）>

事業⑦： 「文化のちから」による日本遺産プロモーション事業						
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 28 年度	
補助金額：	平成28年度 □ 1,080千円	平成●年度 □ 0千円	平成●年度 □ 0千円			
(積算)	一式					
事業概要：	インターネットを活用した番組の□信を行うことで、海外へも情報発信を行い、日本遺産の□力を□じてインバウンドの増加を図る。					
評価指標区分：	ホームページ□覧数 □BV数□				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	日本遺産□係ウェブサイトにおけるPV数					
目標値：	平成 28 年度 10,831 件			⇒ 平成 33 年度 13,800 件		
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	10,831	11,400	12,000	12,600	13,200	13,800
実績値	10,831	10,502	8,121			
事業⑧： 日本遺産周□ルート□発・ボランティアガイド等育成事業						
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 28 年度	
補助金額：	平成28年度 □ 6,500千円	平成●年度 □ 0千円	平成●年度 □ 0千円			
(積算)	一式					
事業概要：	日本遺産ストーリーや構成文化□の有効活用を図るため、周□観光ルートを□発し、旅行商品化に向けた□力発掘及び交流人口の増加を図るとともに、日本遺産を積極的に活用するボランティアガイドの育成を□め、地域住民との協働によるまちづくりを推□する。					
評価指標区分：	その他				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	日本遺産の知名度及び□定ストーリーの□知度					
目標値：	平成 28 年度 49 □			⇒ 平成 33 年度 80 □		
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	49	56	62	68	74	80
実績値	49	61	57			
事業⑨： 日本遺産パネル制作事業						
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 28 年度	
補助金額：	平成28年度 □ 1,169千円	平成●年度 □ 0千円	平成●年度 □ 0千円			
(積算)	一式					
事業概要：	日本遺産ストーリーや構成文化□を、市民や観光客が分かりやすく理解できるためのパネルを制作し、広く情報発信を図るとともに、観光□客へとつなげる。					
評価指標区分：	その他				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	日本遺産の知名度及び□定ストーリーの□知度					
目標値：	平成 28 年度 49 □			⇒ 平成 33 年度 80 □		
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	49	56	62	68	74	80
実績値	49	61	57			

＜平成30年度までの事業（日本遺産魅力発信推進事業）＞

事業⑩：	日本〇産〇定〇演会〇催事業					
事業区分：	普及啓発			事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 28 年度	
補助金額：	平成28年度 〇 1,210千円	平成●年度 〇 0千円	平成●年度 〇 0千円			
(積算)	一式					
事業概要：	日本〇産の知名度及び〇定ストーリーの〇知度〇定を〇念し、市民等へ日本〇産の周知を図るとともに、日本〇産を〇じて地域の歴史や文化への意〇〇揚を図る。					
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	日本〇産の知名度及び〇定ストーリーの〇知度					
目標値：	平成 28 年度 49 〇 ⇒ 平成 33 年度 80 〇					
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	49	56	62	68	74	80
実績値	49	61	57			
事業⑪：	日本〇産文化〇〇査・〇〇文献収〇等事業					
事業区分：	〇査研究			事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 29 年度	
補助金額：	平成28年度 〇 914千円	平成29年度 〇 147千円	平成●年度 〇 0千円			
(積算)	一式			一式		
事業概要：	日本〇産ストーリーに係る未指定文化〇等の〇査を行い、歴史的事実の把握を〇める。					
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	日本〇産の知名度及び〇定ストーリーの〇知度					
目標値：	平成 28 年度 49 〇 ⇒ 平成 33 年度 80 〇					
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	49	56	62	68	74	80
実績値	49	61	57			
事業⑫：	日本〇産案内板・〇明板〇置事業					
事業区分：	公〇活用のための整備			事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 29 年度	
補助金額：	平成28年度 〇 5,205千円	平成29年度 〇 690千円	平成●年度 〇 0千円			
(積算)	一式			一式		
事業概要：	日本〇産ストーリーを構成する文化〇に〇明板やプレートを〇置し、構成文化〇への理解を促すとともに、総合的な案内板を主要観光スポットに〇置することで、着地型観光の推〇とあわせ、構成文化〇の〇力を広く発信する。					
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	日本〇産の知名度及び〇定ストーリーの〇知度					
目標値：	平成 28 年度 49 〇 ⇒ 平成 33 年度 80 〇					
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	49	56	62	68	74	80
実績値	49	61	57			

<平成30年度までの事業（日本遺産魅力発信推進事業）>

事業⑬：	バーチャルリアリティ映像制作事業					
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度	
補助金額：	平成●年度 □ 0千円	平成29年度 □ 8,597千円	平成●年度 □ 0千円			
(積算)				一式		
事業概要：	日本□産ストーリーの核である「一本の水□」を□るとともに、□拓当時の□景等をバーチャルリアリティで体□できる映像を制作する。					
評価指標区分：	観光客入□み数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	□成□の入□者数					
目標値：	平成 27 年度 9,000 人			⇒ 平成 33 年度 10,600 人		
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	9,200	9,500	9,800	10,000	10,300	10,600
実績値	10,013	9,534	9,782			

事業⑭：	情報□等掲□事業					
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度	
補助金額：	平成●年度 □ 0千円	平成29年度 □ 1,200千円	平成●年度 □ 0千円			
(積算)				一式		
事業概要：	□□圏を中心に全国から福島県への旅行を検討する方を□山・猪苗代地域へ□導するため、□定となったストーリーをはじめとして、当□地域の□力を旅行□係情報□等へ掲□し、□力を発信する。					
評価指標区分：	観光客入□み数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	□成□の入□者数					
目標値：	平成 27 年度 9,000 人			⇒ 平成 33 年度 10,600 人		
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	9,200	9,500	9,800	10,000	10,300	10,600
実績値	10,013	9,534	9,782			

事業⑮：	プロモーションビデオ制作事業					
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度	
補助金額：	平成●年度 □ 0千円	平成29年度 □ 1,468千円	平成●年度 □ 0千円			
(積算)				一式		
事業概要：	平成28年度に制作したBS-TBSによる「日本□産」の本編及びダイジェスト版に、□成山公園の桜の映像を新たに撮影し、□加で編□・映像の制作を行うとともに、□成山公園のプロモーションビデオを制作する。					
評価指標区分：	ホームページ□覧数 □BV数□			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	日本□産□係ウェブサイトにおけるPV数					
目標値：	平成 28 年度 10,831 件			⇒ 平成 33 年度 13,800 件		
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	10,831	11,400	12,000	12,600	13,200	13,800
実績値	10,831	10,502	8,121			

＜平成30年度までの事業（日本遺産魅力発信推進事業）＞

事業⑯：	プロカメラマンと巡る日本〇産ツアー実施事業					
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度	
補助金額：	平成●年度 □	0千円	平成29年度 □	337千円	平成●年度 □	0千円
(積算)				一式		
事業概要：	□山市出口のプロカメラマン「横田裕市氏等□とともに日本〇産構成文化□を巡りながら、写真撮影を行い、日本〇産の〇力を発信する。					
評価指標区分：	SNS上の情報発信の「いいね」の数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	インスタグラムのフォロワー数					
目標値：	平成 28 年度		300 人	⇒	平成 33 年度 800 人	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	300	400	500	600	700	800
実績値	400	1,500	3,045			
事業⑰：	写真展〇催事業					
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度	
補助金額：	平成●年度 □	0千円	平成29年度 □	967千円	平成●年度 □	0千円
(積算)				一式		
事業概要：	猪苗代町で〇催される〇楽とアウトドアのコラボレーションイベント「オハラブレイク」において、日本〇産の構成文化□を中心とした写真展を〇催する。					
評価指標区分：	SNS上の情報発信の「いいね」の数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	インスタグラムのフォロワー数					
目標値：	平成 28 年度		300 人	⇒	平成 33 年度 800 人	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	300	400	500	600	700	800
実績値	400	1,500	3,045			
事業⑱：	周〇ルート利活用・ルート冊子制作事業					
事業区分：	人材育成			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度	
補助金額：	平成●年度 □	0千円	平成29年度 □	594千円	平成●年度 □	0千円
(積算)				一式		
事業概要：	タクシー事業者に対し、日本〇産及び観光地への理解を深めるため、交〇事業者を巻き〇み研修会を〇催する。併せて日本〇産構成文化□や周〇ルート、観光スポットを紹介するマップを制作し、日本〇産をはじめとした周〇観光ルートの活用・周知を図る。					
評価指標区分：	その他				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	日本〇産の知名度及び〇定ストーリーの〇知度					
目標値：	平成 28 年度		49 □	⇒	平成 33 年度 80 □	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	49	56	62	68	74	80
実績値	49	61	57			

＜平成30年度までの事業（日本遺産魅力発信推進事業）＞

事業⑱：	ボランティアガイド・〇り〇育成等事業					
事業区分：	人材育成			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度	
補助金額：	平成●年度 〇	0千円	平成29年度 〇	3,838千円	平成●年度 〇	0千円
(積算)				一式		
事業概要：	ボランティアガイドや〇り〇を育成し、日本〇産への理解を深め、地域住民や観光客の満〇度を〇め、交流人口の増加へとつなげる。平成28年度は基礎編を実施したことから、平成29年度は応用編を実施し、さらなる充実を図る。併せて、日本〇産に〇係の深い〇山市熱海町の住民等に対し〇としたワークショップを〇催し、日本〇産への理解を深めるとともに、地域〇源及びその〇力再発見へとつなげる。					
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	ボランティアガイドの案内件数					
目標値：	平成 28 年度 217 件			⇒	平成 33 年度 300 件	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	217	233	250	266	283	300
実績値	225	228	120			

事業⑳：	親子ボランティアガイド体〇ツアー事業					
事業区分：	人材育成			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度	
補助金額：	平成●年度 〇	0千円	平成29年度 〇	584千円	平成●年度 〇	0千円
(積算)				一式		
事業概要：	小中学生をメインターゲットとし、日本〇産ストーリーや構成文化〇などを現地視察を交えながら伝えることで、日本〇産への理解を深めるとともに、〇土愛〇成や将来的な人材育成へとつなげる。					
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	日本〇産の知名度及び〇定ストーリーの〇知度					
目標値：	平成 28 年度 49 〇			⇒	平成 33 年度 80 〇	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	49	56	62	68	74	80
実績値	49	61	57			

事業㉑：	日本〇産シンポジウム〇催事業					
事業区分：	普及啓発			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度	
補助金額：	平成●年度 〇	0千円	平成29年度 〇	36千円	平成●年度 〇	0千円
(積算)				一式		
事業概要：	日本〇産ストーリーやその歴史的背景を周知するため、専〇的見地を有する方を招いたシンポジウムを〇催し、〇知度向上に寄与するだけでなく地域が有する歴史的〇力の再発見へとつなげる場とする。					
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	日本〇産の知名度及び〇定ストーリーの〇知度					
目標値：	平成 28 年度 49 〇			⇒	平成 33 年度 80 〇	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	49	56	62	68	74	80
実績値	49	61	57			

＜平成30年度までの事業（日本遺産魅力発信推進事業）＞

事業22：	モニターツアー実施事業 □外国人□					
事業区分：	普及啓発			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度	
補助金額：	平成●年度 □	0千円	平成29年度 □	490千円	平成●年度 □	0千円
(積算)				一式		
事業概要：	市内在住の外国人等を対□としたモニターツアーを実施する。外国人に対する日本□産の□知及び外国人の視点から日本□産及び観光□源を効果的に活用していくための意見徴収・アンケートを実施し、観光□客への取組みを推□するとともに、SNSでの情報発信へつなげ、日本□産の□力を広く発信する。					
評価指標区分：	宿泊者数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	□山市及び猪苗代町のインバウンド宿泊者数					
目標値：	平成 27 年度		9, 101 人	⇒	平成 33 年度 19, 400 人	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	12, 890	14, 200	15, 500	16, 800	18, 100	19, 400
実績値	12, 890	14, 297	17, 696			

事業23：	モニターツアー実施事業 □地元住民□					
事業区分：	普及啓発			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度	
補助金額：	平成●年度 □	0千円	平成29年度 □	600千円	平成●年度 □	0千円
(積算)				一式		
事業概要：	市民・町民を対□としたモニターツアーを実施する。住民に対する日本□産の□知及び地元の視点から日本□産及び観光□源を効果的に活用していくための意見徴収・アンケートを実施し、観光□客への取組みを推□するとともに、SNSでの情報発信につなげ、日本□産の□力を広く発信する。					
評価指標区分：	その他				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	日本□産の知名度及び□定ストーリーの□知度					
目標値：	平成 28 年度		49 □	⇒	平成 33 年度 80 □	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	49	56	62	68	74	80
実績値	49	61	57			

事業24：	事業者ロゴ利用促□事業 □ブランド□定事業□					
事業区分：	普及啓発			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 30 年度	
補助金額：	平成●年度 □	0千円	平成29年度 □	497千円	平成30年度 □	1, 471千円
(積算)				一式	一式	
事業概要：	事業者が□売する商品等について、日本□産と深く□□付けられ、かつ□力の発信につながるものをブランド□定する。また「一本の水□」ブランドロゴ使用□可などの事業者メリットを提供するとともに、ブランドをPRするパンフレット等のツールの制作やシンポジウムの□催等、事業者を広く巻き□んだ普及啓発に寄与する。					
評価指標区分：	日本□産□□で□発された商品・サービス数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	□売書籍等の制作件数					
目標値：	平成 28 年度		0 件	⇒	平成 33 年度 3 件	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	0	1	1	2	2	3
実績値	0	1	9			

＜平成30年度までの事業（日本遺産魅力発信推進事業）＞

事業25：	ジオラマ□置事業					
事業区分：	公□活用のための整備			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度	
補助金額：	平成●年度 □	0千円	平成29年度 □	1,296千円	平成●年度 □	0千円
(積算)				一式		
事業概要：	国指定□要文化□「旧福島県尋常中学校本□」に猪苗代湖から□山への水の流れや当□地域の特色を表現し、一本の水□の全容を把握できるジオラマを□置する。					
評価指標区分：	施□への入□み数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	旧福島県尋常中学校本□の来場者数					
目標値：	平成 27 年度		3,572 人		⇒ 平成 33 年度 4,230 人	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	3,680	3,790	3,900	4,010	4,120	4,230
実績値	4,128	3,340	3,051			
事業26：	パンフレット多言□化事業					
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度	
補助金額：	平成●年度 □	0千円	平成●年度 □	0千円	平成30年度 □	2,198千円
(積算)				一式		
事業概要：	パンフレットの英□、中国□「繁体字、簡体字□、ベトナム□、タイ□への翻□版を制作し、外国人に対する日本□産の□知度向上を図る。					
評価指標区分：	宿泊者数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	□山市及び猪苗代町のインバウンド宿泊者数					
目標値：	平成 27 年度		9,101 人		⇒ 平成 33 年度 19,400 人	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	12,890	14,200	15,500	16,800	18,100	19,400
実績値	12,890	14,297	17,696			
事業27：	PR映像多言□化事業					
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度	
補助金額：	平成●年度 □	0千円	平成●年度 □	0千円	平成30年度 □	1,307千円
(積算)				一式		
事業概要：	BS-TBSで制作した「日本□産」の本編 □5分□とダイジェスト版 □□分□の英□化及び字幕表示化を行うことで、外国人に対する日本□産の知名度及び□知度の向上を図る。					
評価指標区分：	宿泊者数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	□山市及び猪苗代町のインバウンド宿泊者数					
目標値：	平成 27 年度		9,101 人		⇒ 平成 33 年度 19,400 人	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	12,890	14,200	15,500	16,800	18,100	19,400
実績値	12,890	14,297	17,696			

＜平成30年度までの事業（日本遺産魅力発信推進事業）＞

事業28：	外国人プレスツアー					
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度	
補助金額：	平成●年度 □	0千円	平成●年度 □	0千円	平成30年度 □	1,613千円
(積算)				一式		
事業概要：	在京外国人□者を対□としたプレスツアーを実施し、外国メディアに対する日本□産の□知を推□するとともに、世界に向けて日本□産の□力を発信する。					
評価指標区分：	ホームページ□覧数 □PV数□				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	日本□産□係ウェブサイトにおけるPV数					
目標値：	平成 28 年度		10,831 件	⇒	平成 33 年度 13,800 件	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	10,831	11,400	12,000	12,600	13,200	13,800
実績値	10,831	10,502	8,121			
事業29：	マーケティング□査分析事業					
事業区分：	□査研究			事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度	
補助金額：	平成●年度 □	0千円	平成●年度 □	0千円	平成30年度 □	3,564千円
(積算)				一式		
事業概要：	戦略立案の前提となるマーケティング□査を実施し、日本□産構成文化□及びその周□地域をメインに観光客の現状や動向を把握することで、観光客を含めた日本□産の積極的活用を推□することにつなげる。					
評価指標区分：	観光客入□み数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	□成□の入□者数					
目標値：	平成 27 年度		9,000 人	⇒	平成 33 年度 10,600 人	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
目標値	9,200	9,500	9,800	10,000	10,300	10,600
実績値	10,013	9,534	9,782			

日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
22	未来を拓いた「一本の水路」―大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代―

(1) 将来像（ビジョン）

この日本遺産は、明治時代において当時の最先端技術と官民連携、そして大久保利通を始めとした多くの人々の知恵と努力により猪苗代湖から安積平野へ一本の水路を通じたことで、農業、工業、商業においてこの地域が飛躍的な発展を遂げたストーリーが認定された、謂わば地域の発展の礎であり、地域の近現代史を語る上での根幹を成すものである。そのため、日本遺産認定後は、「一本の水路」プロモーション協議会が中心となって地域住民や民間事業者を巻き込み、認定ストーリーの普及啓発を行ってきた。

今後のビジョンとしては、地域内部に対しては認定ストーリーを地域のアイデンティティとして浸透させ、シビックプライドの醸成を図ることを、地域外部に対しては、認定ストーリーや構成文化財、関連資源などを活用した取組みにより地域の魅力が向上し、国内外からの来訪者が増加し、観光や交流が活発となる地域を目指して、各種事業を推進する。

推進体制は、引き続き協議会がベースとなって、意欲的な住民や民間事業者の活躍の場を設けるとともに、日本遺産認定を機に顕在化した、地域住民や民間事業者が中心となって実施している普及啓発等の取組みについて、協議会が支援し地域内外の関係者を取り込むことでネットワーク化を図り、地域全体で来訪者の受け皿を構成する。

事業展開の方向性としては、「暮らしに身近なスポットやツールからひも解く日本遺産ストーリー」「地域全体で来訪者をもてなすための組織体制づくり」「地域特性を活かした来訪者が認定ストーリーを知る機会の創出」を軸とし、明治時代をけん引した「安積開拓・安積疏水開さく事業」達成のカギとなった「挑戦」「多様性」「共生」をキーワードに関連事業を展開し、独自性をとらえた魅力の発信や、それに伴うまちの活性化につなげる。

(2) 地域活性化計画における目標

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①ーA：ボランティアガイドの案内件数（件）

年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	167	36	53	54	55	56

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	【設定方法】直近実績を基点に、毎年1%を加算。 【把握方法】各ボランティア団体への照会
---------------------	--

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①－B：アフターコンベンション等現地視察としての活用数（件）						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	—	—	—	1	2	3
目標値の設定の考え方及び把握方法	【設定方法】2022 年を基点に、毎年1件を加算。 【把握方法】コンベンションビューローへの調査、及び協議会への相談件数					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：日本遺産ストーリーの認知度（%）						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	65	71	64	65	66	67
目標値の設定の考え方及び把握方法	【設定方法】直近実績を基点に、毎年1%を加算。 【把握方法】まちづくりネットモニター（郡山市広聴広報課）					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－B：地域に愛着を持ち、住み続けたいと思う住民の割合（%）						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	64	63	57	59	61	63
目標値の設定の考え方及び把握方法	【設定方法】直近実績を基点に、毎年2%を加算。 【把握方法】市民意識調査（郡山市広聴広報課）					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：一本の水路ブランド認証製品の受託販売額（円）						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	193, 157	52, 600	90, 130	113, 120	114, 251	115, 393

目標値の設定の考え方 及び把握方法	【設定方法】実績の平均を基点に、毎年1%を加算。 【把握方法】協議会でイベント等に出展した際の実績
----------------------	--

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－B：構成文化財（安積歴史博物館、開成館）の年間入館料（円）						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	1,256,950	708,500	533,070	538,400	543,784	549,221
目標値の設定の考え方 及び把握方法	【設定方法】直近実績を基点に、毎年1%を加算。 【把握方法】各施設への照会（開成館は令和2年福島県沖地震の影響により2021年～休館中、2024年再オープン予定。）					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産ストーリーに関係する構成文化財の活用数（箇所）						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	—	—	—	11	12	13
目標値の設定の考え方 及び把握方法	【設定方法】過去開催実績のある施設数を基点に、毎年1件を加算。 【把握方法】施設管理者への調査、及び協議会への相談件数					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－B：文化施設整備基金への寄付額（円）						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	0	0	61,990	20,869	21,077	21,287
目標値の設定の考え方 及び把握方法	【設定方法】直近実績の平均を基点に、毎年1%を加算。 【把握方法】郡山市文化振興課への照会					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：郡山市及び猪苗代町の観光客入込客数（人）						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	7,860,361	3,878,794	3,879,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000

目標値の設定の考え方 及び把握方法	【設定方法】 コロナ禍の現状を踏まえ、郡山市観光課が各種指標として設定している数値。 【把握方法】 福島県観光客入込客数状況調査（福島県観光交流課）
----------------------	---

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－Ｂ：郡山市及び猪苗代町のインバウンド宿泊数（人）						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	22, 246	6, 509	7, 000	7, 700	8, 400	9, 200
目標値の設定の考え方 及び把握方法	【設定方法】 直近実績を基点に、毎年 10%を加算。 【把握方法】 インバウンド宿泊数調査（郡山市観光課）					

(3) 地域活性化のための取組の概要

①暮らしに身近なスポットやツールからひも解く日本遺産ストーリー

全長 360km 以上に及ぶ安積疏水の流入地域では、人々の暮らしに根付く形で、日本遺産ストーリーを構成する用水施設や神社、公園、発電所等の関連施設や、その恩恵を受け発展した産業施設等が広範囲に位置している

これらの地理的背景を踏まえ、現在の発展の礎となった日本遺産ストーリーの理解を深めるため、構成文化財や生活に身近な公共・観光施設を活用して認定ストーリーを知る機会を創出するとともに、年代やターゲットに合わせて戦略的に実施する啓発事業の展開等により、歴史的観点のみならず様々な切り口から日本遺産の魅力に触れ、地域内外のさらなる認知度向上やシビックプライド醸成につなげる。

②地域全体で来訪者をもてなすための組織体制づくり

日本遺産認定以後、関連イベントや事業は、主に協議会及び行政機関が中心となって進めてきたが、その一方で、「一本の水路ブランド認証事業」などを通して、産品を制作し認定ストーリーを普及啓発する者やボランティアガイドとして来訪者に認定ストーリーを含む地域の歴史や文化を伝える者など、意欲的な個人や団体などが活動し始め、地域プレイヤー同士が繋がりを築き、販促や活動を積極的に行ってきた。

今後は、協議会や一本の水路ブランド認証団体といった既存のネットワークがベースとなり、民間主導の取り組みを支援できる組織となるよう役割の明確化などを行うとともに、各種計画への位置づけ、定期的な事業の効果分析を行うなど、効果的な事業への磨き上げと実施体制の見直しを進めていく。

また、地域プレイヤーなどによる認定ストーリーを活用した取組実施の機運をさらに高めるため、地域プロデューサーの支援及び活用、並びにボランティアの育成などを継続して行っていく。

③地域特性を活かした来訪者が認定ストーリーを知る機会の創出

郡山市・猪苗代町の地域の特徴として次の三点が挙げられる。一つ目は、郡山市は「交通の要衝」であり、大型コンベンションが数多く開催され、ビジネス客が多数訪れている点。二つ目は、猪苗代湖や国立公園等、豊富な自然を活用した体験型アクティビティが充実しており、修学旅行や林間学校、スキー教室など県内外から教育旅行先として人気がある点。三つ目は、国際連合工業開発機関（UNIDO）や国際協力機構（JICA）が発展途上国の環境改善に生かすことができる、安積開拓・安積疏水の歴史や今もこの地に息づく灌漑技術がある点である。

これら三つの地域特性を踏まえ、構成文化財の見学や農業体験といった日本遺産認定ストーリーを体験することができる旅行商品の開発や販売など、来訪者が認定ストーリーに接する機会を創出する。

また、来訪者に必要な情報を届けるため、地元報道機関と連携した情報発信や、コンベンション参加者に対して周遊ルートが掲載されたガイドブックの配付などを行う。

組織図・推進体制

日本遺産「一本の水路」プロモーション協議会

総会（意思決定）

運営部会（企画立案）

募集・認証

新たな人材の創出

日本遺産「一本の水路」ブランド認証団体

- ブランド認証団体交流会の開催
- 認証商品・サービスによるストーリーの認知拡大

連携

市町村等

※申請自治体

郡山市※
猪苗代町※
須賀川市
本宮市
福島県中地方振興局

協議会会員

安積疏水土地改良区
安積野開拓顕彰会
（一社）猪苗代観光協会
猪苗代湖観光推進連絡協議会
猪苗代町商工会
合名会社開成社
（公財）安積歴史博物館
（公財）郡山コンベンションビューロー
（公財）郡山青年会議所
（一社）郡山市観光協会
郡山商工会議所
郡山地区商工会広域協議会
郡山地方史研究団体連絡協議会
東京電力リニューアブルパワー（株）猪苗代事務所
福島さくら農業協同組合郡山地区本部
国立大学法人福島大学
郡山市文化・学び振興公社

連携

後援や企画のサポート

市民事業者

株式会社孫の手
東日本旅客鉄道株式会社

- 日本遺産「一本の水路」をテーマとしたFoodCampの開催
- 駅長おすすめ小さな旅、駅構内への掲出等

連携

依頼・協力

参加

参加

生きがいの創出

ボランティア団体
水と緑の案内人の会
ボランティア英語ガイド CLOVER

- 協議会事業等での案内
- 自主事業としての日本遺産案内

参加

アイデアの創出

安積疏水を面白くする会（有志による自主グループ）

- サイドストーリーなどの情報共有
- 異業種での日本遺産関連情報の意見交換

協議会会員

新規設立団体等

既存団体

①日本遺産「一本の水路」プロモーション協議会

(1)運営部会での企画立案、総会での意思決定
(2)自立・自走に向けた組織整備が図れるよう、ワーキンググループ等を開催し、民間同士のネットワークを構築するための機会を創出する。

企画
事業発表

②テーマ別ワーキンググループ
ブランド認証団体や運営部会のほかに、地元の報道機関や企業等も加え、テーマ別のワーキンググループを開催。意見交換等を通じて、多様な視点から日本遺産を活用し、地域の活性化を図るとともに、協議会の自立・自走を目指す。

募集・認証

③日本遺産「一本の水路」ブランド認証団体
認証製品の販売や活動を通じて認定ストーリーの認知拡大を目指す。

参加

④一本の水路ブランド認証団体交流会
一本の水路ブランド認証団体のネットワークを強化し、民間団体（企業、市民活動団体等）同士の連携を生み出し、新たな製品の開発や魅力発信力の強化に繋げる。

参加

⑦有志による自主グループ
異業種間で、サイドストーリーなどの日本遺産関連情報を共有。意見交換を行い、それぞれの立場において実施する事業やイベント等に役立てる。

参加

⑥ボランティア団体
協議会主催事業や自主事業において、認定ストーリー等の地域の魅力を、日本語や英語などで案内し、インバウンドを含めた来訪者の認知度向上に努める。

参加

⑤民間団体
(1)イベントやバスターの実施など、自主財源のもと自主的に日本遺産をテーマとした事業を実施
例 株式会社孫の手 ●日本遺産「一本の水路」をテーマとしたFoodCampの開催
(2)協議会と連携し、事業を実施
例 東日本旅客鉄道株式会社 ●駅長おすすめの小さな旅、駅構内への掲出等

自企業への反映

協議会
新規設立団体等
既存団体

[人材育成・確保の方針]

- ・日本遺産関連事業を通し、意欲的な住民や民間事業者の活躍の場を設けることで、新たなプレイヤーを発掘する。
- ・上記（４）実施体制を基に、協議会に不足する部分は関連団体と連携することで補い、継続性を担保する。
- ・地元教育機関との連携（小学校や生涯学習関連事業での出前講座、高校・専門学校・大学の総合学習やゼミテーマとして設定 等）により、地域を学ぶ教育として日本遺産ストーリーを活用してもらい、認知度向上とともに関連事業への参画を促す。

（５）日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

一本の水路ブランド認証事業により、民間事業者による日本遺産関連商品が数多く誕生している。その売り上げにより、地域全体として収益を得る形はとれているが、日本遺産「一本の水路」プロモーション協議会の運営資金には還元されていないため、その仕組みづくり（協議会が受託販売する際は手数料を徴収する、等）を検討する。

また、日本遺産を活用して積極的に活動している民間事業者等の地域プロデューサーを今後も継続して支援し、地域プロデューサーが協議会の活動に協力・参画することで協議会の組織力を高め、活性化を図り、自走化を促す。

（６）構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

- ・ハード面の整備「（仮称）郡山市歴史情報・公文書館の建設に伴う認定ストーリーの活用」「Roots レイクエリアプロジェクト」や観光事業化、普及啓発「親子参加型謎解き周遊企画」等の新規事業により、構成文化財を活用する機会が増えている。この機会を捉え、その文化財自体の魅力を深く認知させ興味関心を促し、シビックプライドの醸成を図るとともに、文化財の積極的な活用や保全活動の促進につなげる。
- ・猪苗代湖岸清掃活動やアクティビティの開発により、体験を通して様々な角度から日本遺産ストーリーに触れることで来訪者の関心を高め、寄付や保存活動へつなげる。
- ・（５）同様、地域全体の収益の一部を保存活用につなげる仕組みづくりを進める。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	事業を実施・支援する組織の整備		
概要	認定 6 年間で培った既存の組織形態をベースに、民間の取り組みを支援する組織について、役割を明確化し整備・強化を進める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産「一本の水路」プロモーション協議会の継続開催	日本遺産認定を機に組織化された当該協議会を継続し、関係団体の意思疎通を図る。	協議会
②	テーマ別ワーキンググループの開催	一本の水路ブランド認証団体や運営部会員を中心にテーマ別ワーキンググループを開催し、地域住民のアイデアの事業化と、参画者相互のネットワーク化を図る。	協議会
③	一本の水路ブランド認証団体交流会の活性化	一本の水路ブランド認証団体交流会を開催し、各団体やその取り組みを共有する場として位置づけ、民間主導の機運を高める。	協議会
④	日本遺産周年イベントの開催	安積疏水通水 140 周年（2022 年）や郡山市市制施行 100 周年（2024 年）、構成文化財等の周年イベントを開催。イベントを契機に日本遺産ストーリーの認知や理解を高めるとともに、協議会や文化財施設管理者、史談会等の地元関係団体らが連携し、ネットワーク強化を図る。	協議会、行政施設管理者、民間事業者
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	参加者数に占める民間割合		75.0%
2020 年			65.3%
2021 年			71.3%
2022 年	参加者数に占める民間割合		72.0%
2023 年	参加者数に占める民間割合		73.0%
2024 年	参加者数に占める民間割合		74.0%
事業費	2022 年：213 千円 2023 年：104 千円 2024 年：104 千円 内訳：2022 年＝①104 千円＋④109 千円		
継続に向けた事業設計	会議開催や出席に関して生じる事務費については、日本遺産魅力発信推進を目的に行政から支援を得るが、事業発展や協議会自走に向け、別な財源確保の検討を要する。		

(7) - 2 戦略立案			
(事業番号2-A)			
事業名		新たな戦略立案の共有と連携	
概要		日本遺産ストーリーや構成文化財の可能性から新たな戦略立案を図り、関係者間で共有することで、地域独自のまちづくりを実施する。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	各種計画への位置づけ	各種計画に日本遺産の位置づけや関係性を明確化し、関係事業との連携につなげる。	行政
②	PDCA サイクルをまわす仕組みの整備	協議会の運営部会やワーキンググループ等において、定期的に各事業の効果分析や今後に向けたブラッシュアップを行うとともに、実施体制の見直しを行う。	協議会
③	教育旅行等の戦略立案	日本遺産関連施設等への来訪者として、JICA、コンベンション、教育旅行を対象に営業活動を行い、開催のサポートやプレイヤーへの橋渡しにつなげる。	協議会 観光協会
④	関連団体や取り組みと連携した構成文化財等の活用	世界かんがい施設遺産地域活性化推進協議会との連携や次世代エネルギーパークの推進により、構成文化財等を活用した新たな魅力創出や課題解決を図る。	行政
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	協議会等の開催回数		5 回
2020 年			2 回
2021 年			5 回
2022 年	協議会等の開催回数		6 回
2023 年	協議会等の開催回数		6 回
2024 年	協議会等の開催回数		6 回
事業費	2022 年 : 0 2023 年 : 0 2024 年 : 0		
継続に向けた事業設計	会議開催や打合せに関して生じる事務費については、日本遺産魅力発信推進を目的に行政から支援を得るが、事業発展や協議会自走に向け、別な財源確保の検討を要する。		

(7) - 3 人材育成			
(事業番号3-A)			
事業名	日本遺産を活用する人材・事業者の確保		
概要	認定6年間で発掘した人材を引き続き支援・育成し、日本遺産を活用した取り組みの機運を高める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	地域プロデューサーの支援・活用	地域プロデューサーを中心に実施する日本遺産関連事業を支援するとともに、協議会への助言を仰ぐ。	協議会
②	ボランティアガイドの育成	研修会の開催によりガイドの担い手増加と知識の深化を図り、ガイドの特性（生涯学習向け、外国人向け 等）を生かした活動展開の基礎とするほか、各団体の情報共有の場とする。	協議会
③	はやまっ子 （こどもの語り部の育成、確保）	生涯学習の一環としてこどもの語り部を育成する事業において、日本遺産をテーマとして取り上げ、子ども達の郷土愛醸成と人材育成につなげる。	郡山市中央公民館
④	大学による日本遺産関連ノベルティの制作	地元学生が日本遺産ストーリーを学び、関連するノベルティを制作させることで、日本遺産に対する認知と活動意欲を高める。	行政 教育機関
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	ボランティアガイドの案内件数		167件
2020年	ボランティアガイドの案内件数		36件
2021年	ボランティアガイドの案内件数		53件
2022年	ボランティアガイドの案内件数		54件
2023年	ボランティアガイドの案内件数		55件
2024年	ボランティアガイドの案内件数		56件
事業費	2022年：1,026千円 2023年：932千円 2024年：396千円 内訳：2022年＝④796千円＋③230千円 2023年＝④396千円＋③536千円 2024年＝④396千円		
継続に向けた事業設計	会議開催や出席に関して生じる事務費については、日本遺産魅力発信推進を目的に行政から支援を得る。費用が生じる事業に関しては、協議会以外の団体等が実施主体となり、協議会は金銭面以外を支援する。 様々な機会を通して、やる気のある人材を発掘・支援し、継続的な人材確保と新たな取組みの機運を高める。		

(7) - 4 整備			
(事業番号 4 - A)			
事業名	日本遺産に触れるための環境整備		
概要	ハード・ソフト両面から環境整備を進め、様々な場面において日本遺産に触れる機会を創出する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	(仮称) 郡山市歴史情報・公文書館の建設に伴う認定ストーリーの活用	本市の「歴史・文化遺産」を保全・整備活用する施設の新設に伴い、館内に国の機関等が所蔵する古写真、図面等を活用して日本遺産ストーリーを伝える展示ブースを設ける。併せて、構成文化財や文化施設が集積する立地を生かした周遊観光の拠点としての機能を持たせる。	行政
②	Roots レイクエリアプロジェクト	猪苗代湖岸にある日本遺産関連施設をリノベーションし、観光・農業・まちづくりの複合施設を整備。疏水の全体像を体験できる VR コーナーを設置し、エリア観光の拠点としての役割を担う。	民間事業者
③	開成山公園 Park-PFI 事業	Park-PFI による民間活力を活用した整備 (構成文化財の管理・保全、構成文化財や日本遺産関連モニュメントが多数設置されている園内を一体的に活用したイベントの開催 等) を進め、賑わい創出とシビックプライドの醸成を図る。	行政
④	日本遺産紙芝居の制作	地元学生と連携し日本遺産をテーマとした紙芝居を制作。来訪者への認定ストーリーの紹介に活用する。	民間事業者
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	—		—
2020 年	—		—
2021 年	—		—
2022 年	構成文化財の活用数		11 箇所
2023 年	構成文化財の活用数		12 箇所
2024 年	構成文化財の活用数		13 箇所
事業費	2022 年 : 68,720 千円 2023 年 : ①未定 2024 年 : ①未定 内訳 : 2022 年 = ②68,320 千円 + ④400 千円		
継続に向けた事業設計	費用が生じる事業に関しては、協議会以外の団体が実施主体となり、協議会は金銭面以外を支援する。地域の歴史と日本遺産ストーリーは親和性が高いため、各種事業に日本遺産の特色を取り入れてもらい、施設利用者が日本遺産に触れる機会をつくる。		

(7) - 5 観光事業化			
(事業番号 5 - A)			
事業名	観光環境の充実		
概要	既存の地域資源や人材を活用し、日本遺産ストーリーを体験（例：疏水の恵みを体感する農業体験、猪苗代湖での体験アクティビティ、施設見学、VR 等）する受け皿を強化し、新たな来訪者獲得につなげる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産のストーリーを主とする旅行商品の開発・販売	令和元年度から続く、日本遺産をテーマとした体験型コンテンツと掛け合わせた旅行商品化を実施する。商品化に向けてコンテンツの選定、運用方法を検討し、商品の情報発信を含めた販売促進活動を行う。	協議会
②	タクシードライバー、ホテル・旅館フロント担当者研修会の開催	来訪者の最初の対応者となるタクシードライバーやホテル等フロント担当者を対象に日本遺産に関する研修会を開催する。	協議会
③	他地域との連携	福島県内の会津、いわき地方の日本遺産協議会や観光部門と意見交換を実施し、県全体での来訪者獲得を模索する。	協議会
④	日本遺産関連商品の制作販売	民間事業者は認定ストーリーのキーワード「挑戦」「多様性」「共生」に深く関連付けられる産品を制作する。協議会は、開拓者精神の象徴としてそれらを認証し、観光客向け販売品につなげるよう支援する。	民間事業者協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	郡山市及び猪苗代町の観光客入込客数		7,860,361 人
2020 年	郡山市及び猪苗代町の観光客入込客数		3,878,794 人
2021 年	郡山市及び猪苗代町の観光客入込客数		3,879,000 人
2022 年	郡山市及び猪苗代町の観光客入込客数		5,000,000 人
2023 年	郡山市及び猪苗代町の観光客入込客数		5,000,000 人
2024 年	郡山市及び猪苗代町の観光客入込客数		5,000,000 人
事業費	2022 年：1,800 千円 2023 年：0 2024 年：0 内訳：2022 年＝①1,800 千円		
継続に向けた事業設計	地域づくりを目的とした福島県の補助制度を活用することで事業費を確保する。会議開催等で生じる事務費については、日本遺産魅力発信推進を目的に行政から支援を得る。 様々な機会を通して、やる気のある人材を発掘・支援し、継続的な人材確保と新たな取組みの機運を高める。		

(7) - 6 普及啓発			
(事業番号6-A)			
事業名	各団体との連携による普及啓発		
概要	地域内外の人が様々な形で日本遺産ストーリーに触れる機会を創出し、シビックプライドを醸成する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	学校教育での活用	教育機関への出前講座や、小学校授業に使用する副読本掲載を通して、子どもたちとその家族の日本遺産に対する認知を高める。	教育機関
②	一本の水路ブランド認証事業	一本の水路ブランド認証事業を継続する。協議会は、日本遺産に関連付けられる活動を開拓者精神の象徴として認証し、支援する。	民間団体 協議会
③	SNS の活用	フォロワー（市民・関係人口）が撮影し投稿した写真をリポストする参加型の手法で、構成文化財やその周辺スポットを視覚的に紹介。フォトコンテスト及び入賞作品を発表する写真展を開催し、駅構内の商業施設やウェブサイト上で日本遺産の概要紹介と共に周知することで、若年層の新たな認知を獲得し、地域資源の魅力を再認識する機会を創出する。	行政
④	親子参加型謎解き周遊企画の実施	相対的に認知度が低い子育て世代の認知度向上を目的として親子で参加できる謎解き周遊企画を実施することで、認定ストーリーへの理解が深め、シビックプライドの醸成を図る。	行政
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	地域に愛着を持ち住み続けたいと思う割合		64%
2020 年	日本遺産ストーリーの認知度		63%
2021 年	日本遺産ストーリーの認知度		57%
2022 年	日本遺産ストーリーの認知度		60%
2023 年	日本遺産ストーリーの認知度		63%
2024 年	日本遺産ストーリーの認知度		66%
事業費	2022 年：4,656 千円 2023 年：4,656 千円 2024 年：2,631 千円 内訳：2022 年, 2023 年＝③1,910 千円＋④2,746 千円 2024 年＝③1,910 千円＋④721 千円		
継続に向けた事業設計	地域の各種取組みに日本遺産を活用してもらい、様々な視点で日本遺産ストーリーに触れる機会を創出する。 日本遺産に対する認知度・関心度・活動意欲を高めることで、新たな事業創出へとつなげ、将来の民間主導の原動力とする。		

(7) - 7 情報編集・発信			
(事業番号 7-A)			
事業名	地域団体と連携した情報発信		
概要	来訪者が必要とする日本遺産に関する情報を地域内で共有し、様々な主体がもつ媒体を通して情報発信を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	報道機関による情報発信	地元テレビ局や新聞社、フリーペーパー紙に取り上げてもらい、日本遺産を目にする機会をつくる。	報道機関
②	コンベンション冊子への周遊ルート掲載	コンベンション参加者へ配布するコンベンションガイドに日本遺産周遊ルートを掲載し、アフターコンベンションの活用等につなげる。	郡山コンベンションビューロー
②	ウェブサイトの運用・更新 ・日本遺産ポータル ・観光協会	日本遺産ストーリーや各構成文化財の紹介、アクセス等を掲載し周遊を促すとともに、長期滞在や経済効果を目的に宿泊先やお土産品の情報を随時掲載する。	協議会 観光協会
④	旅行商品開発に係る情報発信	日本遺産をテーマとした旅行商品の情報発信について、旅行会社ウェブサイトでの自社販売、海外 OTA での販売等、ターゲットに合わせた効果的な販売方法を選定し、実施する。併せて日本遺産ポータルや観光協会の既存ウェブサイトとリンクさせ、日本遺産情報につなげる。	協議会 観光協会等
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	日本遺産ストーリーの認知度		65%
2020 年	日本遺産ストーリーの認知度		71%
2021 年	日本遺産ストーリーの認知度		64%
2022 年	日本遺産ストーリーの認知度		65%
2023 年	日本遺産ストーリーの認知度		66%
2024 年	日本遺産ストーリーの認知度		67%
事業費	2022 年 : 5,050 千円 2023 年 : 5,050 千円 2024 年 : 5,050 千円 内訳 : 2022 年 = ①50 千円 + ②5,000 千円 2023 年 = ①50 千円 + ②5,000 千円 2024 年 = ①50 千円 + ②5,000 千円		
継続に向けた事業設計	各団体が保有する既存の情報媒体を活用し、様々な場面で日本遺産ストーリーに触れる機会をつくる。		